

「兩岸問題」と「台湾問題」
～ 兩岸問題を理解するためのいくつかの視点～

1. 言葉の問題 - 2つの当事者、2つの視点

「兩岸問題」と「台湾問題」
「台湾問題」と「大陸問題」
「兩岸関係」と「中台関係」

2. いま台湾で何が起きているか!? - 異なるベクトル

- 政治・社会面での「本土化」「台湾化」・・・独立の方向を指すベクトル
- ・ 外省人と本省人、客家人、原住民
 - ・ 李登輝による「本土化」と「民主化」 「台湾に生まれた悲哀」
 - ・ 民進党陳水扁政権の誕生
 - ・ 「正名運動」 - 中国から台湾へ
 - ・ 台湾人としてのアイデンティティ
大陸の無策(強硬策・柔軟策)

- 経済面での大陸依存の強化・・・統一の方向を指すベクトル
- ・ 対大陸投資の増加
 - ・ 大陸に居住する台湾人の増加(上海近郊だけで 30-50 万人)
 - ・ 心理的・政治的に及ぼす影響
台湾の無策(李登輝の「戒急用忍」と陳水扁の「積極開放、有効管理」)

3. 意思疎通ができない兩岸 - 2人で遊ぶ「ポーカー」と4人で遊ぶ「麻雀」

- 「ポーカー」のルール：
- (1) 「1つの中国」・正統性の争い
 - (2) 内政問題
 - (3) 「92年コンセンサス」

「麻雀」のルール：

- (1) 対等：政治実体 主権の承認
- (2) 民主：大陸との相違
- (3) 国際化：米、日の関与

異なるテーブル、異なるゲーム、異なるルール 意思疎通ができない兩岸

4. 兩岸双方の政策 - 二面性と伝わらない「善意」

台湾の対大陸政策

- ・ 求められるバランス - 「本土化」の要請と国家安全確保の要請
- ・ 「新中間路線」と称する現実路線の提起(「4 つのノー、1 つのない」、「台湾前途決議文」の格上げ、経済、人的交流での諸施策、「三通」への対応等) 「善意」
- ・ 強硬ラインの提起(「一辺一国」発言、大陸ミサイル配備の脅威を宣伝、テロリズムと同視)

大陸の対台湾政策

- ・ 「1 つの中国」、「一国二制度」による平和的解決と武力行使の不放弃
- ・ 強硬ラインで恫喝(95,96年のミサイル演習、ミサイル配備、「3 つのもし」)
- ・ 柔軟路線の強調(「一国二制度」の相対化、「1 つの中国」の新たな定義、民進党員との交流歓迎、ミサイル撤去の可能性示唆) 「善意」

5. 今後の兩岸関係 - 追い込まれる台湾

すべてのプレイヤーが受け入れられる選択肢 - 「現状維持」

焦らない大陸と又裂きに合う台湾 維持できなくなる「現状」

台湾がとる手は「国際化」、但し前提あり、その前提は崩れないか